

日本組織培養学会
平成7年9月30日

会員通信
第86号

発行責任者
※佐藤 靖史(東北大加齢研)
三井 洋司(工技院生命研)
※〒980-77 仙台市青葉区
星陵町4-1
電話 022-274-1111 内3469
Fax 022-276-6243

§ 1995年度第10回秋季シンポジウムのお知らせ

International Symposium on

“Sex Steroid Hormone Action in *iv vitro* Culture System”

第10回日本組織培養学会秋季シンポジウム
代表世話人 蔵本 博行

会 期 : 平成7年11月20日(月)~22日(木)
会 場 : 東京ガーデンパレス
東京都文京区湯島 1-7-5 ☎ (03) 3813-6211

セッション内容 I. General Topics II. Endometrium III. Myometrium
IV. Ovary V. Oviduct VI. Placenta VII. Breast
VIII. Pituitary IX. Male genital tract X. Bone

各セッションの演者38名は既に決定されています。詳細は、前号の会員通信、ならび
にお手元のセカンド・サーキュラーを御参照下さい。
現在、ポスター発表、早期参加登録を募集中です。

ポスター応募: 締め切り9月30日
早期参加登録: 締め切り9月30日

多数のご参加をお待ちしております。

§ 日本組織培養学会第69回大会のお知らせ

日 時：平成8年5月15日（水）・16日（木）・17日（金）

会 場：広島厚生年金会館（広島市中区加古町3-3）

街の中心部にあり、平和公園へ徒歩7分くらいです。

企 画：シンポジウム、ワークショップひとつずつを予定しています。

懇親会：2時間半の瀬戸内ディナークルージング。海から見る瀬戸の夕日とライトアップされた宮島の大鳥居が美しい。

大会の詳細については次回の会員通信にてご案内いたします。（来年1月早々の予定です）。参加申し込み、および演題申し込みについても同様です。多数のご参加をお待ちしております。とりあえず、会員の皆様には是非上記の日程を開けておいてくださるようお願いいたします。

大会世話人：広島大学医学部総合薬学部

井出利憲

T E L : +81-82-257-5290

F A X : +81-82-257-5294

email : tide @ ue. ipc. hirosshima-u. ac. JP

§ 平成7年度 生命工学工業技術研究所 講演会のお知らせ

「微生物機能の多様性と新たな展開」

日 時：平成7年11月9日（木） 9：50～16：50

会 場：銀座ガスホール

〒104 東京都中央区銀座 7-9-15 TEL 03-3573-1871

主 催：工業技術院生命工学工業技術研究所

（助）日本産業技術振興協会

参 加 費：無料

問合せ先：工業技術院生命工学工業技術研究所 総務部業務課

〒305 茨城県つくば市東 1-1

T E L 0298-54-6037 F A X 0298-54-6038

申 込 先：（助）日本産業技術振興協会

〒105 東京都港区虎ノ門 1-19-5 虎ノ門1丁目森ビル5F

T E L 03-3591-6272 F A X 03-3592-1368

プログラム

9:50 開 会 生命工学工業技術研究所 企画室長 国分 友邦

—多様性と地球環境への展開— (座長：微生物機能部長 倉根 隆一郎)

- 9:55~10:20 ラビリントチュラ類 *Thrausto chytrium* sp.(SR 21)による
ドコサヘキサエン酸の生産
微生物機能部微生物資源研究室 ○横地 俊弘、中原 東郎
- 10:20~10:45 ポリリン酸蓄積細菌の特性と生物学的リン除去システムへの適用
微生物機能部複合微生物研究室 ○中村 和憲、川原崎 守
金川 貴博
- 10:45~11:10 各種の脂肪族ポリエステルを生分解性
微生物機能部生態化学研究室・ 常盤 豊
(座長：生体分子工学部長 曾良 達生)
- 11:10~11:35 光合成微生物の工学的利用をめざして
生体分子工学部エネルギー変換研究室
○浅田 泰男、三宅 淳
三宅 正人、他
- 11:35~12:00 環境調和型次世代バイオポリマーの微生物生産
微生物機能部長 倉根隆一郎
- 12:00~14:00 ポスターセッション (13テーマ)
- 14:00~14:10 所長挨拶 生命工学工業技術研究所長 大石 道雄

特 別 講 演 (座長：次長 大箸 信一)

- 14:10~15:10 生物指向型生産システムと人工生命パラダイム
神戸大学工学部機械工学科 上田 完次 教授

—微生物・酵素研究の新展開— (座長：分子生物部長 地神 芳文)

- 15:10~15:35 耐熱性キシラナーゼの設計
分子生物部タンパク質工学研究室 石川 一彦
(座長：生物反応工学部長 中村 吉宏)
- 15:35~16:00 微生物由来のキシログルカン特異的分解酵素の探索
生物反応工学部酵素開発研究室 三石 安
- 16:00~16:25 酵母のストレス応答
生物反応工学部細胞システム研究室
○小松 泰彦、大洲 薫、岩橋 均

16:25~16:50 In vivo代謝制御のダイナミズム

—酵母連続培養系における非線形応答現象の解析—

生物反応工学部生物化学工学研究室

○栗山 博、Mark Keulers

16:50

閉 会

生命工学工業技術研究所 次長 大箸 信一

§ 10th International Congress on Histochemistry and Cytochemistry 第10回国際組織細胞化学会議 のお知らせ

1996年（平成8年）8月18日（日）～8月23日（金）（6日間）

国立京都国際会館（京都市左京区宝池）

トピックス

1. 方法関連 免疫組織化学、デジタル画像処理、電子顕微鏡（細胞内小官など）
共焦点レーザー顕微鏡などの新しい顕微鏡、酵素組織化学
オートラジオグラフ、in situ ハイブリダイゼーション
サイトメトリーと形態計測、遺伝子工学（遺伝子のトランスフェクション、ノックアウト、トランスジェニック）、糖と脂質の組織化学
2. 細胞生物 核と脂質染色体、遺伝子、細胞表面と接着因子、細胞回転と生長、
細胞骨格と細胞内輸送、レセプターとシグナルトランスダクション、発生と分化、アポトーシスと細胞死、フリーラジカルと脂質過酸化、神経科学への組織化学的アプローチ、植物細胞の組織化学
3. 疾患と組織化学 免疫—自己免疫疾患、癌—遺伝子とその表現型の組織化学
組織化学の臨床への応用、内分泌疾患への組織化学的アプローチ
感染症への組織化学的アプローチ、老化の機序と疾患
4. 酵素標識抗体法の30年

連絡先

第10回国際組織細胞化学会議 実行委員長 井端泰彦
〒612 京都市伏見区村上町383 A.C. プランニング
電話：075-611-2008 FAX：075-603-3816

オルガナイザー

名誉会長	小川 和朗	京都大学名誉教授
名誉副会長	安田健次郎	慶應大学名誉教授
会長	藤田 哲也	京都府立医科大学名誉教授
副会長	水谷 昭	愛知県心身障害者コロニー名誉総長

実行委員会

委員長	井端 泰彦	京都府立医科大学第2解剖教授
財務委員長	渡辺 慶一	東海大学医学部第2病理教授
地区委員長	芦原 司	京都府立医科大学第1病理教授
出版委員長	斉藤多久馬	自治医科大学第1解剖教授
プログラム委員長	中根 一穂	長崎大学医学部第3解剖教授

§ サイエンス・ボランティア募集のお知らせ

文部省では平成7年度からサイエンス・ボランティア制度を実施することとなり、「サイエンス・ボランティア登録名簿の作成および提供」業務を社団法人日本工学会に委託してまいりました。この制度は、青少年や社会人に科学技術について正しい知識と理解を深めて貰うために設けたものです。

日本には自然科学に関する博物館が260あります。しかし、来館者に説明し、かつ正しい知識と理解を与える学芸員は、1館あたり0.3しかおりません。また、都道府県の教育委員会等が主催する各種のイベントでも、科学技術に関する正しい表現等に欠けるものも見受けられます。

そこで、文部省では、教育機関（大学・高専・高校等）で長く青少年教育に携わった方、企業等で専門家として活躍された方、特殊な技術をもっている方々のご協力を得て、全国的にサイエンス・ボランティア活動を本年度から実施することとしました。この制度は人材派遣ではなく、サイエンス・ボランティアを必要とする機関に情報を提供する事業です。

それに従って、日本工学会では下記要請でサイエンス・ボランティアを公募いたします。

記

1. 応募の期日：いつでも受付ます。ただし、本年度は初めてですので、一応の期限を平成7年10月末日とします。
2. 応募資格：とくにありませんが、ボランティアとして青少年・社会人に科学技術の面白さを、教えたり、一緒に楽しめる方
3. 応募申込み：ハガキに氏名・年齢・性別・連絡先住所・同電話番号を明記して、日本工学会まで登録用紙を請求して下さい。

4. 資格審査：日本工学会内に設けた「サイエンス・ボランティア企画委員会」において資格審査を行い結果をお知らせします。
5. 登録用紙請求先および問い合わせ先：
〒107 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
社団法人日本工学会「サイエンス・ボランティア係」
☎ 03-3475-4621 FAX 03-3403-1738

§ 編集後記

第86回会員通信をお届けいたします。今年の夏も去年と同様に厳しい暑さでしたが、梅雨の時期に雨が多く去年のような水不足にならなかったのは幸いでした。

ところで、前号でお知らせしましたように、会員通信では寄稿文を募集しております。内容は問いませんが、差し当たって学会名称のことなどで御意見がありましたら会員通信発行責任者まで郵便またはファックスでお送りください。 (Y. S.)